



湾岸・アラビア半島地域ニュース

カタール：アティーヤ副首相兼エネルギー・工業大臣の発言 (12月22日付現地各紙)

12月21日、ドーハにて開催された第28回GCCエネルギー相会合で、カタールのアティーヤ副首相兼工業・エネルギー相は次のように語った(要旨)。

1. 原油価格の下落は、産油国・石油企業の投資を委縮させ、ひいては将来の供給危機につながるものである。
2. 我々は既に、産油諸国・石油企業が事業の中断もしくは中止を実施し始めていると聞いている。原油価格が低すぎるまま推移した場合、コストの高いプロジェクトには誰も投資をしないであろう。
3. 原油市場のバランス維持は、産油国・消費国の共同責任であり、双方が協力する必要がある。産油諸国だけでコントロールすることは出来ない。

また、同相は、その後の記者会見で次のように話した。

- (1) OPEC 減産決定後の原油価格下落には驚いていない。下落は、世界経済の減速によるものである。
- (2) (OPEC の更なる原産の可能性について) 世界経済の先行きは依然はっきりしていない。2009年第一四半期まで待つ、先行きを見る必要がある。
- (3) OPEC 加盟各国がプレッジした減産を実行するものと信じている。前回の減産決定の実施率は80%超であった。